

●施設整備が進み定着

温暖な気候、充実した施設に恵まれ、「スポーツランド宮崎」は、本県の代名詞としてすっかり定着している。特に春はプロ野球、プロサッカーチームのキャンプのメッカとなっており、全国の熱い視線を集めている。

本県がスポーツランドとして躍進したのは、暖かい気候と運動施設、ホテルなど宿泊施設の整備が進んだこと。それがキャンプ、合宿の適地として認知される大きな要素となった。

運動施設の核となっているのが宮崎市木花の県総合運動公園。置県八十周年記念事業で一九八一（昭和五十一）年完成。当時は硬式野球場、陸上競技場など十九施設が整い、三十二競技ができる全国でも有数の運動公園で、七九（同五十四）年宮崎国民体育大会のメイン会場となった。

その後、プロ野球の公式戦もできる「サンマリンスタジアム宮崎」「武道館」を整備。現在二

〇〇四（平成十六）年三月完成を目標に「全天候型ドーム」を建設中で、全国トップクラスの規模、内容となる。

キャンプや合宿の誘致合戦が激しさを増す中、近年の本県の優位は際立っている。プロ野球は今年も一九五九（昭和三十四）年二月から続く巨人（宮崎市）をはじめ、広島（日南市）、近鉄（日向市）、ヤクルト（西都市）が春のキャンプを張った。来年春季には西武（南郷町）、ダイエー（宮崎市）も加わり、本県に人気球団が集結する。

一方、プロサッカー・Jリーグチームのキャンプも増えている。今年には鹿島アントラーズ、清水エスパルス、ベガルタ仙台、サンフレッチェ広島、コンサドーレ札幌、大分トリニータ、アビスパ福岡が宮崎市、ガンバ大阪、川崎フロンターレが綾町、セレッソ大阪、大宮アルディージャが西都市、ベガルタ仙台が延岡市をキャ



宮崎は春季キャンプのメッカ。県外からも大勢の観客が訪れる
(写真は巨人キャンプ)

ンプ地に選んだ。

実に十一チームが本県入りしたわけだが、その引き金になったのは日韓共催で行われた二〇〇二年ワールドカップサッカー。ドイツとスウェーデン代表が本県でキャンプ。全国で八十もの自治体がキャンプ候補地に手を挙げていた中、二チームがキャンプしたのは本県だけだった。他県に比べていかにスポーツ環境にすぐれているかが、はっきりと立証されたのである。

本県が「スポーツランド宮崎」推進に乗り出したのは九六（平成八）年。経済効果も大きく、今では地域振興の大きな柱に育っている。

三又 喬